

## 野林健教授退職記念

### 献辞

野林健先生は、2009年3月末日に一橋大学大学院法学研究科を定年退職され、同年4月1日に一橋大学名誉教授とされました。

野林先生は、1945年7月4日に大阪府でお生まれになり、同志社大学をご卒業後、国際基督教大学で修士号を取得、1971年に一橋大学大学院法学研究科博士後期課程に進学されました。1974年に博士課程単位取得後、同志社大学アメリカ研究所、オハイオ州立大学マーシオン・センター（フルブライト研究員）などを経て、1980年に一橋大学法学部にご着任されました。以来29年間にわたり、本学において研究と教育にご尽力されました。

一橋大学法学部・法学研究科の国際関係論プログラムは、細谷千博名誉教授が日本でいち早く開設されたものですが、その後の科目の充実、発展、体系化において中心的役割を担ってこられたのが、野林先生であります。野林先生は率先してプログラムを拡充されると同時に、「国際関係論」「国際政治経済論」「現代国際社会と政治」「グローバル・ネットワーク論」「国際関係論特問」「グローバリゼーション研究」「国際関係論ゼミナール」など数多くの科目を、学部・大学院でご担当されました。さらに、評議員、自己評価委員長などの重要な役職を務め、一橋大学全体の発展にも貢献されました。

長年にわたる野林先生のご研究をここで要約することは決して簡単ではありませんが、失礼を承知で、四期に分けて紹介させていただきます。第一期は、比較のお若い時期のご研究であり、国際政治の理論研究、とりわけ対外政策決定過程論の分野において先駆的な論文を多く著されました。アメリカの対外政策決定過程のモデル化に取り組むとともに、当時まだ萌芽期にあった計量政治分析の手法を積極的に取り入れ、早くも第一線の国際政治学者となりました。

第二期は、一橋大学赴任後に精力的に取り組まれたご研究で、理論やモデルからいったん離れ、緻密な実証研究を極められた時期に当たります。アメリカの鉄鋼管理貿易を事例として、国際貿易の政治化のダイナミズムを生き生きと描き出

し、国際政治経済学の研究者であれば必ず参照する2冊の著作、『保護貿易の政治力学』(1987年)と『管理貿易の政治経済学』(1996年)を刊行されました。

第三期は、国際貿易だけでなく、経済のグローバル化という壮大なテーマに取り組み、国際政治経済学の地平線を広げることに情熱を傾けられた時期です。ご編著『国際政治経済学・入門』は、1996年(初版)、2003年(新版)、2007年(第3版)と版を重ね、スタンダード・テキストとして広く読まれてきましたが、そこには野林先生が長年取り組まれてきた理論研究および実証研究の成果、そして常にフロンティアを目指す研究姿勢のエッセンスが凝縮されています。

そして第四期は、「現在進行形」なのであります。このたびのご退職でご研究が途切れることがあるはずもなく、新たな職場で、いっそう刺激的なご研究に取り組んでいらっしゃいます。ごく最近、グローバリゼーション研究の範囲を国際金融に広げられたほか、日本型自動車生産システムを題材に《再文脈化》というグローバル化の発展過程を理解するための新アプローチに着手されました。この先さらに、第五期、第六期とご活躍されることを確信しております。

一橋大学法学部の野林ゼミナールは、第24期まで、約四半世紀にわたり続いてまいりました。結束の固いOB・OG会は「野放会」と名乗っています。これは「やほうかい」と読むのですが、実のところ、もうひとつの読み方がゼミの特徴であったと言えなくもありません。しかしそれは、野林先生が学生たちの自主性を重んじ、のびのびと学ばせてくださったということであり、多くの学生は悩んでいるときに手を差し伸べていただいたり、卒業後まで実に細かな心配りをいただいたりした経験をもっているのです。だからこそゼミ生は、はばかりことなく「野放会」と名乗ったのであります。

この退職記念号には、野林先生を慕う教え子や元同僚が論文を寄せました。野林先生のますますのご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

2009年5月

一橋大学大学院法学研究科教授 山田 敦

九州国際大学法学部教授 山本啓一